（別紙４）

公表　事業所における自己評価総括表（保育所等訪問支援）

○事業所名	コペルプラス八王子北野教室			
○保護者評価実施期間	２０２６年　9月　1日	～	２０２６年　9月　１８日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	１１４	（回答者数）	７１
○従業者評価実施期間	２０２６年　9月　1日	～	２０２６年　9月　１８日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	7	（回答者数）	7
○訪問先施設評価実施期間	２０２６年　9月　1日	～	２０２６年　9月　１１日	
○訪問先施設評価有効回答数	（対象数）	５５	（回答数）	４９
○事業者向け自己評価表作成日	２０２６年　9月　１９日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	お子様の様子をさまざまな場面から捉え、必要な支援を考えていること	訪問時の様子だけで判断せず、お子様とのやり取りや、保護者・訪問先から伺った話も合わせながら、困っていることやその背景を考えるようにしています。できていることやお子様の強みも大切にしながら、実際の生活の中で取り入れやすい支援方法を考えています。	今後もその時の様子だけでなく、以前との変化や支援後の様子まで丁寧に確認し、お子様に合った支援につなげていきます。また、お子様の成長が保護者や訪問先にも伝わるよう、具体的に共有していきます。
2	職員間で情報共有や検討を行い、チームで支援を考えられること	訪問で気になったことや対応に迷ったことは職員間で共有し、一人で判断せずに支援方法を考えるようにしています。それぞれの職員が持っている経験や専門的な視点も取り入れながら、お子様にとってより良い方法を検討しています。	今後も日頃の情報共有や事例の振り返りを大切にし、職員によって支援の方向性に差が出ないようにしていきます。研修等で学んだことも職員間で共有し、実際の訪問支援に活かしていきます。
3	家庭・訪問先・関係機関をつなぎながら支援できること	家庭での様子と学校・園での様子は必ずしも同じではないため、それぞれから得た情報をつなげながらお子様のことを考えています。訪問先の先生方とも、その場で無理なく続けられる方法を一緒に考え、必要に応じて関係機関とも情報共有を行っています。	今後もそれぞれの場所で行っている支援がばらばらにならないよう、お子様に合っている関わり方や支援方法を共有していきます。担任や環境が変わる時にも必要な支援がつながっていくよう、連携を大切にしていきます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所の取組や訪問先との連携について、保護者様への情報発信をさらに充実させる必要があること	日々の支援についてはその都度お伝えしていますが、事業所全体として行っている取組などは、こちらから説明する機会が少なくなりやすいと感じています。	日々の支援報告に加え、安全管理や緊急時の対応、訪問先との連携、事業所として行っている取組についても、保護者様に分かりやすくお伝えしていきます。また、ホームページやSNS等での情報発信についても、必要な情報が確実に届くよう周知方法を工夫していきます。
2	訪問の目的や訪問支援員の役割について、訪問先との共有が十分でない場合があること	訪問では、様子を見ることを中心にする場合もあれば、お子様に直接関わる場合、先生方と対応方法を相談する場合もあります。その時の状況に合わせて動いているため、何を目的とした訪問なのかが訪問先から見えにくくなることがあります。	訪問時には、今回どのようなところを見るのか、どのような支援を行うのかをできるだけ共有します。訪問後も、見て終わりにせず、気付いたことや今後の関わり方について先生方と共有できるようにしていきます。
3	支援による変化を振り返り、次の支援につなげる部分をさらに充実させる必要があること	学校や園での困りごとは、短期間ですぐに解決するものばかりではありません。そのため、困りごとがなくなったかどうかだけでは、支援による変化を捉えにくいことがあります。	「できるようになったこと」「以前より落ち着いて取り組めたこと」「周囲の関わり方を変えたことで過ごしやすくなったこと」など、小さな変化も丁寧に振り返っていきます。その積み重ねを次の支援方法や個別支援計画の見直しにつなげていきます。